

パートナーシップおかや

NO. 22

岡谷市男女共同参画推進市民の会

議員生活を終えて

前市議会議員

鮎澤 美知



「女性の意見を市政に反映してほしい」と男女共同参画推進市民の会のメンバーと元市議、他有志の方々にすすめられ、常日頃市政に物思うこともあって立候補の決意をし家族に相談しました。「自分は選挙は嫌いだがやってみたいならやってみれば」という主人の声に励まされ立候補しました。

第一関門は選挙です。後援会づくり、出るための事務手続き、大勢の皆さんの無償の善意で成り立つものだとつくづく感じました。それには常日頃の「生きざま」が評価されるということです。私一人がいくら頑張っても知れたものです。男女共同参画という通り、主人の「生きざま」が大きく影響したと思っています。

岡谷一小さい区から50年ぶりに出馬するという事は、近隣の区のみならず岡谷市中の皆さんの協力を得ないといけないので、本当に多くの方々にお世話になりました。

2期8年の間、どんな小さな会合でも顔を出し、多くの人々の声に耳を傾け、何が問題なのか、解決方法はないのか、新聞、テレビ、他多くのメディア、また視察研修を通して考えたことを一般質問の中で、主として提案型で質問してきました。最後の2年間は市政初の女性監査委員として貴重な体験をさせていただきました。市政全般について多くの人々の考えをお聞きする中、女性としての視点にこだわることなく、多方面から物事を見る目も広まったと感謝しています。

私は勤勉で誠実、進取な気風を持つ岡谷の人々や、諏訪湖のあるこの街、そして適度に働く場所のあるこの岡谷が大好きです。「住んでみたいまちー岡谷」を掲げ、コンパクトシティを目指して頑張ってきました。

これからの岡谷の第一の課題は人口問題、少子化対策です。女性の特性を生かした活動をしていきたいと思っています。70歳を期に引退しようと思いましたが、女性が選挙に出るには家族の理解と本人の勇気が必要です。多くの女性がチャレンジ精神を持って立ち上がり、活躍して下さることを心から望んでいます。

男女共同参画社会づくりポスター小・中学生から募集しました

岡谷市・岡谷市教育委員会・岡谷市男女共同参画推進市民の会では、子どもの頃から男女共同参画意識を育てるために、夏休み中にポスターを画ってもらいました。小学生から90点、中学生から20点計110点の応募があり、9月15日に審査が行われました。子どもらしい個性豊かな作品が多く最優秀賞、入賞作品が選ばれました。作品は11月6日(金)～12日(木)までカルチャーセンター催事場で展示されます。12月5日(土)には、「市民のつどい」がカノラ小ホールで開催され、入賞作品も展示されます。



審査会の様子

男女共同参画週間 6月23日(火)～29日(月) 啓発事業

岡谷市男女共同参画推進市民の会では、期間中パネル展示とポケットティッシュを配布し啓発を行いました。



～参画週間中見学に訪れた方々に感想を聞いてみました～

- ・小、中学生のポスターが上手に画けていてよい。
- ・いい世の中になった。これも皆さんの活動のおかげですね。(年配女性)
- ・歳をとったら男性も家事を今は皆やっていますか？(70代男性)
- ・男女共同で創りあげてゆく社会は当然のこと。(19歳男性)
- ・昨年のポスターコンクールに応募して興味を持った。学校でも男女共同参画について勉強をしている。(中3男子)
- ・2歳と1歳の男児子育て中。来年上の子が保育園にいけば仕事を探したい。情報がほしくてここ(カルチャーセンター)へ来た。福井から来た。
- ・退職後同じ仕事についても、女性はパートでしか再雇用されないのが不利。

～30代の何組かのご夫婦に聞いてみました～

- ・もうバッチリです。
- ・よくやってくれます。(妻) 二人三脚だね。(夫)
- ・協力し合ってやっています。(二人ともニコニコ)
- ・なかなかね。子どもがいるのでフリーの仕事しかない。
- ・家事は電化されたので誰でも出来る。それを子どもが見て育つ。



平成27年度 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議開かれる

岡谷市連合婦人会 副会長 花岡 秋美

キャッチフレーズ <地域力×女性力=無限大の未来>

6月24日東京国際フォーラムにて(内閣府主催)開催されました。有村治子大臣(女性活躍担当)は、「女性の能力を発揮して、女性の活躍と男女共同参画が進むようにしたい」と願望を述べられました。

基調講演では、伊藤元重 東大教授より経済学の立場からアベノミクスとは何か。実際に活動するのは国民と地方であり、日本はデフレから脱却しようとしている。人口減少の中で経済が成長する為には生産性を上げる必要がある。時代は変化しておりピンチをチャンスにする事でいい地点にきているように話されました。また石破茂大臣(地方創生担当)の特別メッセージがあり、出産数が増えず人口減少が続いている。男性の士気を上げるためにも女性の参画が必要であり、ライフスタイルに合わせた働き方にして、イベント～サービスへ移行しないと国が持たないと話されました。

パネルディスカッションでは「女性の活躍が地方を元気にする」をテーマに、各界で活躍されている4名のパネリストより意見発表の後、最後に一言で纏めていただきました。

① 寿命を延ばすためにも楽しむ。② 体験の価値 ③ 日本の課題解決(人口、労働力減少) ④ 幸福度の向上。これからの時代は女性の感性が求められ、自分の得意な分野で人を巻き込んでやると活動しやすくなり、感性こそが原動力となる。出来ることを地域ぐるみで支え合うと、肩に力を入れなくても頑張れる、というヒントを得ることができました。

岡谷市企画課では、岡谷市男女共同参画推進事業として、「子どもの意識づくり」のための冊子を、市内全小学校へ毎年配布しています。この冊子を読んだ5年生の皆さんに感想を書いてもらいました。



<長地小学校5年生の感想>

○男女関係なく生活することが大切だと改めてこの本を読んで思いました。また自分の好きな道をゆくというのも良いと思いました。家族は一つ一つの命がつながり、今私達はいるのだと思いました。家族はなくてはならない存在だと感じました。これからは1日1日の生活を大切にしていきたいです。

○私は「命ってだれのもの？」という話が心に残りました。理由は、自分はお母さんお父さんに育てられてきたけど、そのまたお母さんお父さんがいなければお母さんは生まれていなくて、自分も生まれていないということを書いてあったので、自分も「そうだなー」と思いました。



○本当に家族や友だちは一生の宝物だとこの本を読んで感じました。「しょうらいのゆめ」という所で一人一人ちがう所がぼくはいいと思いました。この本を読んでぼくは少し安心しました。なぜかという、赤ちゃんの事などが書いてあってなぜか安心しました。

○私がこの冊子を読んで感じたことは、「〇〇だからダメ」「〇〇だから変だな」ということではないということです。まわりの目を気にしないで挑戦していかないと、新しい世界は始まりません。女の子と男の子で好きな事はちがうけど、男の子が女の子の事をやってもおかしくありません。自分の好きな事をやっていくべきです。家族で協力しあうのも大切だと思います。困っている人がいたら助ける、これが皆が自分から出来ればよりよいくらしが出来ると思います。

○私はこの本を読んで個人差はなにも関係ないと思いました。なぜならその人はそうなりたくてもなれなくて生まれてくる人もたくさんいるからです。男の子も女の子もやりたい事、好きな事をその人らしく考えていいと思います。わたしも、はずかしいからやらないとは考えず、自分らしく生活をしていきたいと思ひます。

○ぼくが思ったことは男子と女子の平等についてです。女の子がやる事でも男の子がやったり、男の子がやる事でも女の子がやることは、ぼくはあまり変だと感じませんでした。一人一人が好きなスポーツや特技を



やればばいいと思います。大人になったらぼくはレゴクリエイターになりたいです。ブロックでいろいろな物を作って開発したいです。

○ぼくの心に残ったことがあります。それは「家族ってなに？」の所です。なぜかという、協力し合い、努力し合い、理解し合い支え合って、そうしてゆっくり育んだものが家族になるのかなあ？という所です。ぼくはハットしました。なぜかという家の人にならぶように悪口をいいふらしているの、これからはそういう事をいわないようしたいと、この本を読んで思いました。

○私が心に残ったことは二つあります。一つ目は男子も女子も協力するという事です。男子だから重い物を持つのではなく、みんなで協力するといいと思ひました。二つ目は家族や地域でみんなで協力すればすぐにできることが多いと思ひました。自分だけがやるのではなく、全員で協力できるととてもいいと思ひました。みんなで協力する大切さがわかったのでとても良かったです。

○わたしがいいと思ひたお話は二つありました。

一つ目は「家族ってなに？」というお話です。家族は大切に支え合って生き、つらいことがあると助けあうのを家族というと思ひました。二つ目は「命ってだれのもの？」というお話です。命は人間一人一人に一つしかありません。



よくまんがとかで、友達のためにとかよく命をすぐなげすてる人がいますがそれはまちがっていると思ひます。友達も相手ももっと生きてほしいと思ひていると思ひます。この冊子を読んで命の大切さ、家族の大切さを知りました。

○「男の人と女の子のちがってなに？」について書きたいと思ひます。「よく男の子は強い女の子は弱い」という言葉をききます。たしかに男の子は大人になると女の子よりも体も大きく力も強くなります。それは体のつくり方がちがうからです。男の子がやる事、女の子がやる事と最初から決めつけず、自分の出来る事を出せるはんいでがんばっていきたくと思ひます。お互いをみとめ合うことが大切だと思ひます。

<湊小学校5年生の感想>

○男子も女子も自分がやりたいことをえらんでやればいいと分かったので、これからは自分のやりたいことをやろうと思いました。家庭では家族みんなで「自分のことはじぶんでやる」ルールをつくれれば、お母さんだけがとっても大変になることも少ないので、これからは自分のことは自分でやるなどのルールをつくり、お母さんが大変にならないようにしたいと思いました。

○この本を読んで感じたことは家族についてです。私はお母さんお父さんが仕事をしているので、おばあちゃんが平日、土曜日にご飯を作ったりせんたく、そうじをしてくれます。でもこの本を読んでから、家族で分たんしてやればみんな大変じゃなくなると思いました。だから自分のことは自分でやろうと思いました。他に「命はだれのもの？」というのを読んで、赤ちゃんのお世話は大変だけど、一つの命なので大切にしたいです。

○私は「あなたらしくわたしらしく」を読んで、男女協力し合うということと、男女関係なく好きなクラブや委員会、仕事を選んでいいということを知りました。家族にルールが必要だということが大事だと思いました。朝自分で早くおきたりみんなで一緒に朝ごはんをたべたりして、ルールを大切にしたいです。

○この本は生活にひつようなことがたくさん書いてあってとても勉強になりました。もっと読み返してみているいろいろなことを考えた



いです。そして男女が共同していけるようなポスターをつくりたいです。これからは、ぼくたちのクラスでも男女で協力しあい仲良く生活したいです。

○(1)は男女関係なくやりたいことはやっていいということを知ることができました。それにわたしは運動が好きでみんなと一緒にサッカーをやりたいけど、男の子しかなくてうまく入りこめなかったことがあります。(2)私の家にもルールがあります。私とお兄ちゃんでお米をたく、洗濯物をたたみかたづける。おふろを洗うというルールです。私はめんどくさくてやらない時もありますが、ルールを守らないとお母さんもつかれてしまうのでやることはしっかりやりたいです。

○せいべつで決めたり、クラブも男子がいなくて入りたいけど入れないじゃなくて、はずかしがらずに入りたいです。

○大人になったらやりたい仕事、自分にあった仕事をさがしたいと思いました。

○ちいきの人とふれあい、仲良くなるというのは大切だと思いました。

○ぼくはこの本を読んで「男女共同参画」ということを始めて知りました。男女が協力し合うとか、こ機会に男女共同参画をしていきたいと思います。



<岡谷小学校5年生の感想>

○「男の子だから、女の子だから」っていうのじゃなくて同じ人間だから平等にして、その人の好みについていろいろ言うのは良くないと思いました。自分らしく生きたいと思いました。

○男の子の方がきん肉が強いから重い物を一人で運ぶことはあるけど、女の子も一人で運ぶこともあるから、そんなに気にしなくてもいいと思いました。スポーツは男の子の方がいっぱいやっているけれど、女の子だってサッカーやったり野球をやったりしているから、自分がやりたいならその目標に向かってやっていけばいいと思いました。



○私がお話を読んでみて、2・3ページのクラブ活動では、男子と女子ではできないことやできることがあることがわかって良かったです。私もえんりよせずにチャレンジしたいです。人は自分らしく生きていくといいと思いました。

○この本を読んで、働くって意味がよくわからなかったけれど、保険料をはらったりするにはお金がないといけないから、すごくこのマンガは勉強になりました。

○男の子と女の子の差とか私も気にしてしまう時がよくあるけど、この本を読んであまり気にしない方がいいんだなと思いました。これからは自分で判断していきたいです。

全国会議参加者に感想を聞きました

- ◇活動事例の紹介では、実行者の“動く力”を感じそれに対する支援、見守りが大切だと感じました。我が岡谷でも足りないものを探すのではなく、持っているものを発見しピックアップすることが大切ではないか。
- ◇男女共同参画は「女性の問題」と片付けられてきたが、「男性の意識の変化」も大切だと説く識者が出てきたことは嬉しいことだ。女性力を活用する社会に変化しないと将来は危ういとの認識をあらたにした。
- ◇リーダーの存在と資質の重要性を感じる。働き方にインターネットの参加が増えると思うが、在宅での就労ではセキュリティが心配。
- ◇地域の活性化には女性の活躍が大きな原動力だと改めて思った。来年は40代前後の若い人の参加をお願いしたい。同世代の女性が活躍していることを知り自分もやってみようと思ってもらいたい。市がそれを後押しできたら素敵なことだと思う。
- ◇企業のリーダー・トップが新しい働き方を提案し、実践している職場は男女共に考え方や働き方が変わってきていることを実感しました。それが女性の活躍の場を広げることになり、そんな企業が岡谷にも増えたらいいなと思いました。



平成27年度 男女共同参画 地域フォーラム in あげまつに参加して

長野県共同参画をめざす会 浜田 恵美子

日時 平成27年8月29日(土) 12:50 ~ 16:00
場所 上松町ひのきの里総合文化センター

「お手伝いネットワーク木曾」と「上松町キャラ会」の方々の事例発表のあと、「男女共同参画で地域力UP!」と題し、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授の、萩原なつ子さんより講演がありました。いきなり「千円札に描かれている人物は誰ですか?」との質問で始まり、私は「聖徳太子か岩倉具視」かな?なんて頭に浮かびましたが、答えは「野口英世」でした。毎日見てもわかりませんでした。私たちは身近な何気ない事でも関心を持たないと見えてこない。常に関心を持って見るのが大切だと話され、本当にそうだと思います。



変わるもの、変わらないものを見極めながら地域を作っていく。異質なものがどうしが協力して作っていく事で新しいものが生まれる。多様な主体が協力してこれまでの社会より更に良い社会の構築を目指そう。

地域力x女性力には無限大の未来がある。個人がそれぞれ自分にふさわしい生き方、ライフスタイルを選択出来る社会を作っていこう。人口の半分は女性、私たち女性が主体性を持って地域の中へ進んで出て行かなければいけないと思いました。

替え歌の中で「継ぐ程の家でもない」と歌った時には、思わず納得して笑ってしまいました。無意識にこうでなければ自分中心の考えが沢山ある事に気づかされました。

今の環境を変えようと一人でも立ち上がって努力していけば、地域が少しずつ変わる事を勉強できた充実した一日でした。

「岡谷しあわせサポート部」の皆さんをお訪ねして

岡谷市男女共同参画推進市民の会

男女共同参画推進にあたって避けて通れないのが、少子高齢化、介護、ワーク・ライフ・バランスです。長野県でも未婚者の増加が少子化の主な要因であるとの認識のもとに、若者の結婚に向けた活動（婚活）を応援し、出会いの場づくりをするための「婚活サポーター」を募集中です。

それに呼応して岡谷市でも若い人達が結婚して幸せな家庭を築き、子どもの元気な声が街中に溢れ、活気ある岡谷にしたいと活動しているのが、標記のグループの皆さんです。

- ① 会の発足 平成27年3月
- ② 会長 高見澤恒子さん（岡谷市連合婦人会々長）
- ③ 構成メンバー 市内40代～70代の男女10人（男性2）
各種団体長・世話やきおばさん・おじさん
活動に賛同する有志など。
- ④ 設立の目的 結婚したいけれど機会にめぐまれずなかなか結婚できない人への仲介、支援活動。
結婚することのむづかしさについて意識啓発。
県が実施する結婚支援事業への協力。
- ⑤ 活動の内容 月1回例会
情報を持ち寄り最適な組み合わせを検討。男女出会いの場の設定・結婚相談・仲介・アドバイス・申込者との面接。



⑥ 活動を通しての課題

男性に対して女性の申し込みが少ない。およそ1（女性）対3（男性）の割合。申込者の年齢が女性より男性の方がかなり高い。20代後半から40代半ば。男性側には両親との同居を望む人もいる。消極的な男性が増えた。男性の方が結婚難。

⑦ 現在までの活動の成果

会が発足してまだ日が浅いのでゴールインしたカップルはないが、現在交際中が4組ある。申し込みが月6件～10件あり働き甲斐がある。

会に申し込まれた結婚相談には、会員が事前に面接し、例会の折にあらゆる面から検討し適当と思われる男女を、あまり人目につかない場所で紹介。後は本人同士に任せ退席する。後日経過を報告してもらう。責任ある仕事なので、何よりも申し込まれた方との信頼関係と、プライバシーの厳守に努め、誠意を持ってあらゆる支援に献身的に活動されておられる姿が印象的でした。

会員の中には県の研修会に参加し、認定証を交付されている方もおられます。一日も早くカップルの誕生を待ち望んでいることでしょう。また情報の提供を希望されていますので、結婚を望んでいる男女（特に女性）に心当たりのある方は、下記までお知らせください。無料で行っております。

連絡先（申し込み） 0266-22-1782 高見沢さん
0266-23-2138 増沢さん（事務局）

平成27年度 男女共同参画
入場無料

おかや市民のつどい

お知らせ

日時 12月5日(土)13:00 場所 カノラホール小ホール

講演とパネルディスカッション

「仕事と育児 どっちを選ぶ？ 両方できる？」

ご来場をお待ちしています 講師 経済ジャーナリスト 冶部 れんげ さん